

## 第3章 ストックポイントを活用した流通の効率的な 輸送体制構築等実証・検討事業

### 第1節 事業概要

#### 1) 組織体制

本年2023年度（令和5年度）は農林水産省の令和5年度持続的生産強化対策事業のうちジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業において花き生産供給力協議会（一般社団法人日本花き生産協会（事務局）、一般社団法人日本花き卸売市場協会、一般社団法人全国花卸協会、一般社団法人JFTD、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の構成団体として事業を行った。

#### 2) 課題

2024年4月からの自動車運転業務への時間外労働時間の上限規制等の適用による、物流の2024年問題への対応が迫られている。花きの輸送においても様々な問題が懸念されている。最も大きな問題としては長距離輸送が困難になることが挙げられる。トラックドライバーの労働時間が減少することでこれまで運ぶことができた輸送距離を運べないことになる。こうした課題に対して個々の事業者ごとの取り組みでは対応が困難なため、全国で統一的な取り組みのモデルが必要である。

#### 3) 目的

前述に示した課題への対応として花き流通標準化検討会により策定された「花き流通標準化ガイドライン」を踏まえ流通効率化に資する技術を用い、長距離輸送による負担の軽減に有効とされるストックポイントを活用してそれぞれの効果を検証するための実証実験を行う。また、検討委員会を組織し実証実験より得られた成果を検討し今後の花き流通の課題に対する対応のモデルを示すことを目的とした。

#### 4) 内容

物流に関する専門家等から構成される有識者検討委員会を立ち上げ、事業実施かかる設計、検討を行った。実証実験では3つのポイントについて検証・報告を行い、花きの新たな輸送手段について有効性を示した。

1つ目はソースマーキングの活用である。花き輸送においては商品にバーコード等を用いたソースマーキングが行われることはほとんどない状態である。これにより、輸送状態の可視化ができない、検品作業が困難、情報の不統一などが課題となっている。本実験で

は花き EDI 標準フォーマット<sup>8</sup>・日本花き取引コード<sup>9</sup>（以下、JFコード）に準拠したシステムを用いて出荷段階で出荷情報を作成し、RFID ラベルに情報を印字、書き込みを行い、出荷時に RFID ラベルを貼付することでソースマーキングを行う。このようにして RFID ラベルを用いたソースマーキングによる検品作業への効果を検証した。

2つ目は統一規格台車の使用である。2020年の調査によると荷待ち時間がある運行の平均荷待ち時間は1時間34分、平均荷役時間は1時間29分と報告している（国土交通省（2020）<sup>10</sup>）。トラックドライバーの労働時間削減のためには荷待ち時間および荷役時間の短縮が効果的であると思われる。これについて本実験では「花き流通標準化ガイドライン」で推奨されているハーフ台車を用いて手荷役と台車を使用した荷役を比較して効果について検証した。

3つめはストックポイントの活用である。2024年4月よりトラックドライバーに対して時間外労働の上限規制が罰則付きで適用されることにより、1人のトラックドライバーが輸送できる距離が短くなることが懸念されている。花きの輸送には長距離輸送（300km以上）が多く今後輸送に大きな影響がでると予想されている。こうしたなか、各業態は長距離輸送の解消のため物流拠点を用いた中継輸送に乗り出している。これに対して本実験では永井株式会社お台場物流センター<sup>11</sup>（以下、永井共同荷受所）および株式会社名港フラワーブリッジ（以下、名港ハブセンター<sup>12</sup>）をそれぞれストックポイントとして中継輸送を行い輸送実態について検討を行った。

## 5) 検討委員および協力企業・組合

<検討委員> 10名 敬称略

福永 哲也	豊明花き株式会社 代表取締役社長
田嶋 久嗣	札幌花き園芸株式会社 代表取締役社長
中嶋 強	株式会社仙花 代表取締役社長
林 悦孝	株式会社名港フラワーブリッジ 代表取締役社長
大西 常裕	株式会社なにわ花いちば 代表取締役社長
笠 文樹	福岡県花卉農業協同組合 組合長
吉武 利秀	株式会社大田花き 執行役常務兼ロジスティック本部長
豊吉 伸司	株式会社フラワーオークションジャパン 常務取締役

<sup>8</sup> 花き EDI 標準フォーマット：花き出荷者と花き卸売会社の間で電子情報を交換（EDI）する際に用いる標準フォーマット

<sup>9</sup> JF コード：取引されるすべての花や植物の品種に対し割り当てられた、6桁の数字のコード番号

<sup>10</sup> トラック輸送状況の実態調査結果 令和2年 <https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001409525.pdf>

<sup>11</sup> 永井株式会社お台場物流センター：東京都江東区青海において全国から集荷された切花をおもに市場にむけて分荷配送を行う。

<sup>12</sup> 名港ハブセンター：株式会社名港フラワーブリッジが2022年11月愛知県名港花き地方卸売市場内に設置した物流拠点で集荷された切花を中部地区をメインに全国へ分荷配送を行う。

真鍋 光裕 一般社団法人日本花き生産協会 流通ワーキンググループ長

傍島 昌代 パーソナル情報システム株式会社 コンサルタント

<オブザーバー>3名 敬称略

桐生 進 株式会社大田花き花の生活研究所 所長

矢野 新一 大阪フラワーサービス株式会社 代表取締役社長

竹原 裕 株式会社花満 専務取締役

<協力企業・組合>

●ストックポイント

永井株式会社 お台場物流センター（永井共同荷受所）（東京都）

株式会社名港フラワーブリッジ（名港ハブセンター）（愛知県）

●出荷者

JA 鶴岡（山形県）

JA 全農山形（山形県）

JA めぐみの（岐阜県）

JA 全農岐阜（岐阜県）

ユーティローズ（岐阜県）

有限会社吉田園芸（埼玉県）

有限会社セントラルローズ（岐阜県）

●卸売市場

株式会社宇都宮花き（栃木県）

株式会社青梅インターフローラ（東京都）

株式会社名港フラワーブリッジ（愛知県）

岐阜生花市場協同組合（岐阜県）

●運送

日本植物運輸株式会社

名港フラワーライン株式会社

●台車

豊明物流株式会社

●システム

パーソナル情報システム株式会社

●事務局

社団法人日本花き卸売市場協会

株式会社フラワーオークションジャパン

6) 事業日程

〈検討委員会〉

開催日	会議	内容
2023年6月23日	第1回検討委員会	事業説明 第1回実証実験説明
2023年11月16日	第2回検討委員会	第1回実証実験報告 第2回実証実験説明
2024年3月8日	第3回検討委員会	第2回実証実験報告 事業まとめ

〈事前実地調査〉

実施日	場所	内容
2023年4月26日	日本花き卸売市場協会	事業打合せ
2023年5月5日	宇都宮花き 青梅インターフローラ	事業説明・現地確認
2023年5月18日 2023年5月19日	岐阜生花市場協同組合 JAめぐみの セントラルローズ	事業説明・現地確認
2023年5月22日	吉田園芸	事業説明・現地確認
2023年6月8日	永井共同荷受所	事業説明・現地確認
2023年6月12日	名港ハブセンター	事業説明・現地確認
2023年6月16日	JA鶴岡	事業説明・現地確認
2023年10月26日	ユーティローズ	事業説明・現地確認

〈実証実験〉

実施日	内容	場所
2023年7月18日 ～ 2023年7月20日	第1回実証実験1週目	吉田園芸 JA 鶴岡 永井共同荷受所 名港ハブセンター 名港フラワーブリッジ 岐阜生花市場協同組合
2023年7月25日 ～ 2023年7月27日	第1回実証実験2週目	セントラルローズ JA めぐみの 名港ハブセンター 永井共同荷受所 宇都宮花き 青梅インターフローラ
2023年9月10日	手荷役試験	フラワーオークションジャパン
2024年1月23日 ～ 2024年1月25日	第2回実証実験1週目	吉田園芸 JA 鶴岡 永井共同荷受所 名港ハブセンター 名港フラワーブリッジ 岐阜生花市場協同組合
2023年1月29日	荷役比較試験	名港フラワーブリッジ
2024年1月30日 ～ 2024年2月1日	第2回実証実験2週目	セントラルローズ ユーティローズ 名港ハブセンター 永井共同荷受所 宇都宮花き 青梅インターフローラ